

心豊かに
生涯学習



中之町コミセンだより

第263号

私たちのコロナ対策～工夫を凝らして活動しています！ 「フォークダンスサークルなかの」と「男性の料理教室」

【フォークダンス】

窓を開放しながら冷房、換気扇も運転しています。(写真上段)

「手をつなぐ」動作が当然有りますが、手をつないだつもりで静かに練習しています

(写真2段目)

講師の道前さんや世話役の楢原さんたちは、指導のためフェース・シールド着用です。

(写真3段目左)

本来は楽しく飛んだり跳ねたりしますが、今は我慢我慢！

(写真下段は2年前の文化祭から)



【男性の料理教室】

部屋の窓全開で間隔を開けて調理します。盛り付けは医療用手袋をした方が行います (写真上段) 参加者が多いので、試食は実習室と研修室に分散しています。移動専用のお盆も揃えました。

(写真2段目・3段目)

中之町での講座は10年目を迎え、『生徒さんの手際の良さは玄人はだしですよ』と、一貫して指導に当たって頂いている講師の瀬戸先生と助手の新舎さんはニッコリ。

(写真下段)



コミセン周辺の環境整備

草刈・清掃でスッキリ！ありがとうございます。

コミセン利用団体からの依頼を受けて、年間7～8回に亘るコミセン周辺環境整備(草刈・清掃)が行われています。夏場は刈っても刈っても伸びてくる草との格闘。担当の井上祐一さんも汗だくですが、ご覧の通りスッキリしました。ありがとうございます。お疲れ様でした。



コミセンの利用者からは「清潔な感じで気持ち良いね」と好評。地域の方がジョギングで使われている道筋でもあるので、近隣からもお礼の言葉が寄せられました。

地域の文化史を訪ねて 深町「ふるさと賛歌」(後編)

(8月1日号から続く) 深町の盆踊り「口説き」の取材に始まったやり取りでしたが、途中から深町が成立した由来などにも話が広がっていきました。引き続き西本一三(ひふみ)さんにお聞きすると、『祖先は四国の愛媛県大三(おうみ)島から渡って来て、ここ(旧・深田村)へ住み着いたそうだ。深田村には安芸から備後に抜ける街道を挟むように2か所の山城も有り、要所のひとつ。時代的には三原城が出来る少し前のこと。又、深に伝わる太鼓踊りは、鳥取の大仙神社(小早川隆景の兄、吉川元春の領地)から分岐したということで、毛利一族内での交流の後が随所で見られる』と語られました。



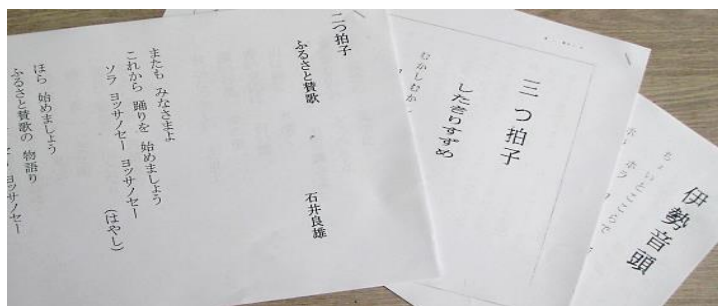
村上水軍の戦旗と家紋など

さて、ここからは編集者の稚拙な日本史の知識からの記述になりますが、西本さんのご先祖たちが深の地に移住したのは、村上水軍が豊臣秀吉の『海賊禁止令』で解体された時期と重なります。そうした中で村上一族と関係の深かった小早川隆景が、陸に上がらざるを得なくなった海賊衆の一部を保護し、自領の要所に配置したという話はある事です。西本さんのご先祖たちの深田村への移住には、そうした村上水軍興亡史という歴史ロマンの一幕が脈々と息づいているのではないかと…「ふるさと賛歌」の中に唄われた「ここに生まれた人達は 先取り 進取の気性あり…」と、信長や秀吉ら往時の権力者と対峙しながら、瀬戸内で自由闊達に生きていた海賊衆の血脈と伝統が生き生きと残されているのではないかと…と、遙か昔に思いを馳せることが出来ました。

ただ取材にに応じていただいた西本さんからは「話のいくつかは聞き伝え」の部分もあるとのこと。真偽も含めて専門家の皆さんに突っ込んだ話を聞きたくりますが、これはまたの機会に。

最後に、コミセン便りをお読みの皆さんへお願い。

こうした地域の文化史やこぼれ話を募集しております。コミセンの中での活動から一歩広げて、お住まいの地域に親しむ機会を交差・創造していきましょう。(生涯学習相談員)



口説きの節廻しも色々。二つ拍子の「ふるさと賛歌」三つ拍子の「舌きりすずめ」は民話から採ったもの。伊勢音頭は江戸時代に流行したお伊勢参りを下敷にしたもので、祭りの最後に唄われている。